

11 人を傷つける偏った正義感（インターネット）

皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、最上もががお届けします。タイトルは「人を傷つける偏った正義感」です。

インターネットが普及し、多くの人がSNSを情報発信に活用する一方で、誹謗中傷の被害が増え続けています。被害者が心を傷つけられるだけでなく、命を絶つような悲しい事件も多く起こっています。

10

国際大学グローバル・コミュニケーション・センターの准教授・山口真一さんは、講演などを通して、健全なネット社会のあり方について提言しています。

15

山口さんは言います。

「ネット上で誹謗中傷をする人は、何も特別な人ではありません。多くの場合、本人に誹謗中傷をしているという意識はなく、自分は正しくて相手が間違っていると思いつい込んでいます。『許せなかつた』『失望した』という理由で、個人的な正義感から攻撃をしていります。」

20

脳科学の分野では、正義感をもとにバッシングすると、喜びや快楽を感じるドーパミンという物質が出ることが分かつ

5

ています。相手が苦しむと気持ちが良くなり、だんだんやめられなくなってしまうのです。

最近はアクセス数を増やすため、真実に反する過激な投稿をする人も増えていくので、ネット上の情報が事実なのか見極めることが大事です。

特に、怒りを感じる情報に触れたときほど、偏った正義感を振りかざさないよう、自分にブレーキをかける必要があります。

誰もが手軽に情報発信できる時代だからこそ、人として大事にすることがあると、山口さんは話します。

「まずは、他者を尊重するという基本的な道徳心を私たち一人一人が持つことが重要です。そして、投稿するときは、ひと呼吸置くこと。自分が書いたものを見返し、考える時間を持つ習慣を身につけてください。なぜなら、インターネットの発信力は非常に強く、誰でも簡単に人を攻撃することができます。

何を正義と感じるかは、人によつて違います。自分と違うからといって攻撃するのではなく、多様な見方があるのでと捉えることも大切です。」

ネット社会では、いろいろな人が同じ空間を共有しています。どんなときも、画面の向こうにいる人の気持ちを考え、

45

40

35

30

言葉を発することを忘れずにいたいですね。

（本文919字）